

教育実習を母校で 5 月 25 日から 6 月 12 日までの 3 週間行いました。教育実習が始まるまでは 3 週間をとっても長く感じていました。無事に終わることができるのか、生徒と仲良くなれるのか、充実した 3 週間を送ることができるのか、など考えると不安という言葉しかよぎりませんでした。しかし、教育実習が始まるとそんな不安を考える時間がないほど一日一日があつという間に過ぎていきました。

HR 担当のクラスと授業を担当するクラスが異なっていたため、HR 担当のクラスの生徒と接する時間がありませんでした。沢山の生徒と接するためには実習生である私から話しかけるべきだったのですが、生徒とどのような会話をしたらよいか分からず、頭で考えてばかりで話しかけることがあまりできませんでした。しかし、少しずつではあるが私からも生徒からも話しかけるようになり、距離を縮めることができたと思います。実習が終わるにつれ、些細なことなど生徒から話してもらえました。そのことがとても嬉しかったです。少しずつ継続的に生徒に声をかけ続ける事で心を開いてくれたのではないかと思います。

担当教科は生物でした。授業は 2 クラス担当、4 単元 9 時間行いました。行った授業数は、他の実習生よりも少なかったと思います。しかし、たった 9 時間の授業を行うだけでもとても大変でした。クラスによって授業中の雰囲気が異なりどのように進めたらクラス全員が楽しく興味をもって授業を受けてくれるかを考えることが苦労しました。どの単元も 1 回目の授業ではとても緊張しました。緊張して何を話しているのか分からなくなり、頭が混乱してしまい、うまく話せなかったことが多々ありました。また、生徒が授業に興味を示してくれた時もありましたが、それを次の内容に持っていくのが上手くできませんでした。生徒の興味を 45 分間ずっとひきつけることができず、生徒に興味をもたせる授業をすることが課題でした。指導教諭の先生よりもはるかに知識がない分どのように補って授業を行えばよいかなかなかいい案が思い浮かばず、沢山の先生方に相談しました。そこで、先生方はどのように進めると生徒が興味をもって楽しく授業を受けられるのかを常に考えておられるのだと思いました。声の大きさ一つでも大事なところは大きな声で言い、その他は、少し音量を抑えたりする、など工夫が出来るのだなと思いました。

実際のところ、教育実習に行くまでは、教師になりたいという気持ちがほとんどありませんでした。しかし、教育実習に行ったことで、教師という職業に興味を持ちました。教師は授業の準備、生徒をひとりひとりみるなど、とても大変なことばかりだと再確認しましたが、生徒と寄り添うことでたくさんの嬉しさ、楽しさ、悔しさなど得るものが沢山あると思いました。また、高校時代のことを思い出すことができ、お世話になった先生方が、こんなにも生徒のことを考えてくれていたのだと思い、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。3 週間という長いようで短い時間、教育実習で充実した日々を過ごせたことは、少しは私を成長させてくれたのではないかと思います。